

データサイエンス・ラボ

ラボの目的

- 学外の公開コンペティションに参加し、そこで課される実データに基づく課題を解決する。
- データ分析に慣れるとともに、戦略構築などに取り組み 知見の導出や問題解決力を高める。

1年間の活動報告

統計・Rの基礎知識習得

- ゼミ所属後は、統計に関する知識を深めるため、教科書を用いて統計学の基礎勉強を行った。各自担当する章を決め、統計解析ソフトRを使用したデータ分析の手法を学んだ。

統計グラフコンクール

- 過去の入賞作品の分析の後、各自のテーマを次に参加する和歌山のデータコンペのテーマ「交流人口拡大」に関したのものとして、統計グラフの制作にとりかかった。制作過程の中で先輩方に何度も添削を行ってもらい、客観的な視点から自分の作品を振り返り、試行錯誤を繰り返すことで、より良い作品に仕上げた。出品した1作品が県で最優秀賞を受賞し、全国で入賞を果たした。

和歌山県データ利活用コンペティション

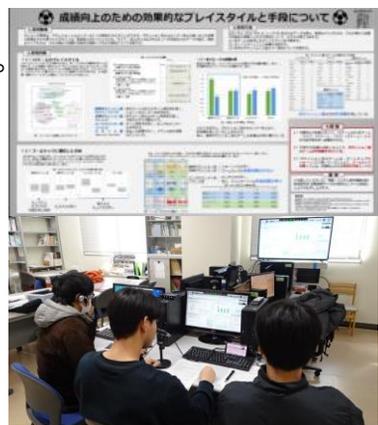
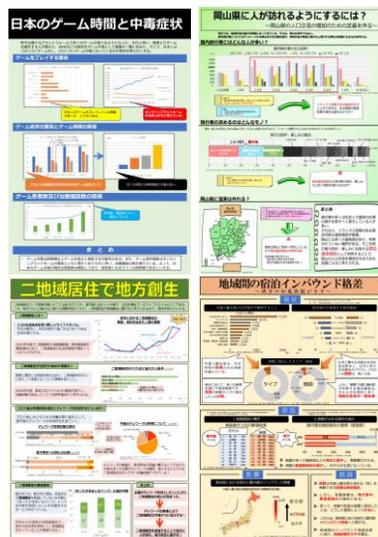
- 和歌山県データ利活用コンペティションに参加した。「ウィズコロナ時代における地域の交流人口を拡大させるための施策」というテーマのもと、古民家と温泉を活用したグランピング施設を提案することにし、9月から調査とまとめにとりかかった。
- 10月に一次審査に応募、11月にその審査結果が発表された。私たちのチームは大学生40チームの上位7チームに選ばれ、12月に和歌山市で行われる最終審査会に進むことになった。
- 最終審査会には高校生7チーム、大学生7チームが参加し、各チーム14分の発表の後、質疑応答・講評が行われた。最終審査の結果、私たちは協賛企業賞、「ワイヤ・アンド・ワイヤレス賞」を受賞することができた。

スポーツデータサイエンスコンペティション

- 11月からはスポーツデータサイエンスコンペティションに参加した。サッカーの提供データ（J1の95試合のプレイデータ）を使い、「成績向上のための効果的なプレイスタイルと手段」について研究を行い、月末に一次審査に応募した。無事、一次審査を通過し、最終審査会にポスター形式で参加することになった。
- 12月中旬からポスター制作、発表練習を始め、96のチームが参加する1月の最終審査会にオンラインで臨んだ。受賞には至らなかったが、他大学の発表を見る中で、発表の仕方、研究方法など非常に勉強になることが多かった。

今後の計画・目標

私たちはこの活動の中で、多くのデータを分析し、データ分析の技術を向上させることができた。また、他大学の学生との交流を経て、勉強になることが多く、自分たちの課題ができた。この経験を、来年度の卒業論文で活かし、より良い研究を行いたい。



担当教員：森裕一

所属学生4名（小野公之・木山丈裕・濱谷勇太・廣岡正太）

ポスター制作：小野公之